

日清オイリオグループ  
CSR報告書 2011  
ハイライト



「おいしさ・健康・美」を追求する  
私たちの社会的責任

# “植物のチカラ”<sup>®</sup> を活かして 「おいしさ」「健康」「美」を 多くの皆様に

## NISSHIN Oillio

世界中の豊かな自然で育てられた植物が、おいしい油の原料です。

日清オイリオグループは、食用油だけでなく、  
植物を原料にさまざまなものを作っています。

「Oil」にOilを反転した「liO」を組み合わせた「Oillio」には、  
製油業の原点を大切にしながら、食用油の領域を超え、  
新しい分野へ次々とチャレンジしていくという意思をこめています。

創業以来培ってきた最高の技術力で“植物のチカラ”を引き出し、  
皆様にお届けしてまいります。

### 会社概要

商号：日清オイリオグループ株式会社  
本社：〒104-8285 東京都中央区新川一丁目23番1号  
代表者：代表取締役社長 今村隆郎  
創立：1907年(明治40年)3月7日  
資本金：16,332百万円(2011年3月31日現在)  
売上高：3,052億97百万円(2011年3月期・連結)

経常利益：63億8百万円(2011年3月期・連結)  
従業員数：2,771名(2011年3月31日現在・連結)  
事業所：本社、4生産拠点(横浜磯子、名古屋、堺、水島)、  
中央研究所、8支店、11営業所(2011年3月31日現在)  
グループ会社：国内12社、海外5社(連結子会社)(2011年3月31日現在)

## 経営理念

1. 企業価値の追求と、その最大化を通じた人々・社会・経済の発展への貢献
2. 「おいしさ・健康・美」の追求をコアコンセプトとする創造性、発展性ある事業への飽くなき探求
3. 社会の一員としての責任ある行動の徹底

## コアプロミス

日清オイリオグループは、健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)を提案・創造いたします。そのために私たちは、無限の可能性をもつ植物資源と、最高の技術によって、あなたにとって、あったらいいなと思う商品・サービスを市場に先駆けて創り続け、社会に貢献することを約束いたします。

# CONTENTS

トップコミットメント	4
<b>特集 1</b>	
多様な人材が活躍できる職場へ	6
<b>特集 2</b>	
世界の飢餓をなくすためにできること	12
日清オイリオグループのCSR	16
お客様のために	17
取引先とともに	18
株主・投資家の皆様とともに	18
従業員とともに	19
社会のために	20
環境のために	22
第三者意見	23

## 編集方針

### 報告書の構成

当社のCSR関連情報は、本報告書とホームページなどを通じて開示しています。本報告書は、「**ハイライト**」として当社がステークホルダーの皆様の特にお伝えしたいことや、2010年度の新たな取り組みについて報告しています。ホームページでは、その他の取り組みや関連情報を含めて、「**フルレポート**」として掲載しています。本報告書とあわせてご覧下さい。

[日清オイリオグループ ホームページ](#) [CSR報告書へのアクセス](#)

### 報告対象期間

2010年4月1日～2011年3月31日

一部に当該期間外の取り組みが含まれています。

### 報告範囲

日清オイリオグループ株式会社と連結子会社(国内・海外)を含むグループ全体です。ただし環境パフォーマンスデータと一部の取り組みは、日清オイリオグループ株式会社単体を対象としています。(報告書中での表記について、日清オイリオグループ株式会社単体を「当社」、日清オイリオグループ株式会社と連結子会社(国内・海外)を含むグループ全体を「当社グループ」としています)

# “植物のチカラ<sup>®</sup>”を活かして世界へ

2011年3月11日に発生した東日本大震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された多くの皆様へ心よりお見舞い申し上げます。

震災後、当社は被災地における一刻も早い救援活動および復興に役立てていただくために、当社の食用油・栄養調整食品・治療食品や義援金の提供を通じ支援をさせていただきました。被災地の一日も早い復旧・復興を心より祈念するとともに、今後もできる限りの支援をしております。

当社においても震災によって倉庫が損傷を受けるなど、一時的に製品の供給に支障が出ましたが、2009年に地震対応の事業継続計画(BCP)を策定し、非常時のプロセスを検討してあったことや、社員全員が全力で復旧に向けて努力したことで、比較的早い段階で安定供給を回復できました。

今回の震災において、世界各国が国の枠を越えて日本を支援する姿が見られましたが、世界の人の輪としての新たな連帯意識の強まりというものを感じました。当社のCSRの取り組みも、国内はもちろん、地球レベルでの推進を目指しておりますが、これを機にさらにその思いを強くしました。

### ■ 100年企業の誇りを胸に

このたびの社長就任にあたり、当社が100年企業としてずっと大切にしてきた安全・安心、品質追求といった伝統を受け継いでいくとともに、社員が誇りを持ち、「誰から見てもいい会社、素晴らしい会社」の実現を目指してまいります。CSRの観点で言い換えれば、顧客、株主、従業員、地域社会などのステークホルダーの皆様から、より大きな信頼と高い支持を得られるような魅力ある会社にしていくことをお約束します。

また、当社のコーポレート・ステートメントである“植物のチカラ”を活かして、世界中の人々へ「おいしさ・健康・美」をお届けしてまいります。

### ■ 成長を実感するフェーズII

2011年4月から、当社の10カ年経営基本構想“GROWTH 10(グロース・テン)”は、フェーズIIの段階に入りました。フェーズIでは成長のための基盤を築き

ましたが、フェーズIIでは成長を実感しなければなりません。

しかしながら、国内の製油業界は、穀物原料高騰、少子高齢化による市場の成熟化、搾油量の減少など非常に厳しい経営環境にあります。ここ数年のこうした変化は、一過性ではなく構造問題としての認識が必要です。“GROWTH 10”は、そうした転換期にあって次の100年に向けて新たな成長を実現するため、大胆に事業構造を変革し国内外の市場を創造する取り組みです。

フェーズIIでは、フェーズIで取り組んできた基盤作りと成長への布石を具体的な成果として収益に反映させてまいります。「利益志向」と「技術重視」、「海外市場開拓」をキーワードに、「安定した収益基盤の確立と確かな成長を実現する」重要なフェーズと位置づけ、大きく飛躍してまいりたいと思います。

油脂・油糧事業領域での収益の安定化を前提に、加工油脂事業を第二の収益事業として油脂事業に匹敵する事業に育て上げ、また、中国油脂・油糧事業、ヘルシーフーズ事業、ファインケミカル事業、大豆食品・素材事業などの成長事業は収益面での自立を前提に、次の成長への布石を打ってまいります。また、国内だけでなく成長拡大するアジア市場は大変魅力的で、アジアを中心に海外の活力を取り込むことが重要です。差別化された技術を武器に中国、マレーシアなどの拠点の優位性を活かし、スピード感を持って海外市場開拓をさらに積極的に進め、海外売上高比率30%以上を実現してまいりたいと思います。

### ■ グローバル企業としての使命

グローバルに展開する企業グループとして、地球規模の社会的課題を避けて通ることはできません。当社は原料のほとんどを海外に依存しているため、原料調達にかかわる課題が非常に大きな要素になってきます。たとえば、森林伐採などの問題では、産地や輸出先の企業・団体・NPOも参加する「持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)\*1」が組織されており、当社でもグループ会社が加盟しています。他の原料も含めこうした問題には、正面から向き合っていかなければならないと考えています。

また、地球規模の課題のひとつに飢餓があります。食に携わる企業として、その解決の力になりたいという思いで、当社は7年間にわたり国連世界食糧計画(WFP)を通じて支援を続けておりますが、社員の協力の輪が年々広がっているのは嬉しいことです。

加えて、海外展開を進める当社の決意として、7月に「国連グローバル・コンパクト※2」に参加しました。

これらを通じて、当社はグローバルな視野で、将来にわたる課題の解決に貢献していきます。

※1「持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)」については、フルレポートで詳しく掲載しています。

※2「国連グローバル・コンパクト」についての詳細は、16ページをご覧ください。



## ■ “植物のチカラ”を活かした環境への取り組み

これまで当社は一貫してCO<sub>2</sub>排出量、廃棄物の削減に対しコージェネレーションシステムを含む燃料転換の推進や3R活動などを実施してきました。当社の国内工場は、植物油工場としては世界トップ水準の環境負荷の少ないものとなっています。

2009年策定の環境理念・環境方針のもと、コーポレート・ステートメントである“植物のチカラ”を技術で引き出し、原料・資材の調達から生産・流通・廃棄にいたるまで、地球環境に配慮した商品・サービスの開発と提供を通じて、資源循環型社会の構築を目指し、当社にふさわしい環境政策を実施していきます。

## ■ 一人ひとりに広がる活躍の場

当社グループの企業価値を高める最大の原動力は人材です。もともと当社は、教育に熱心な風土があり、「教育はあらゆる業務に優先する」という考えを教育の柱にしてきました。人事制度では、能力開発や仕事を通じて一人ひとりが大きく成長し、ひいては会社の成長につながるという理念が貫かれています。

ワールドワイドにビジネスが拡大する中で、海外で実力を発揮できるグローバル人材を育成することが今後の重要な課題です。活躍する場が広がるにつれ、社員一人ひとりに大きなチャンスが広がっています。能力を磨き、やる気さえあれば大きな舞台は用意されており、当社は社員にとっても働きがいのある非常に魅力的な会社だと思えます。難題に果敢に挑戦し乗り越える勇気と行動力をぜひ発揮していただきたいと思えます。

日清オイリオグループは、環境変化に機敏に応える柔軟な企業風土をもち、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを積極的にとりながら、社会から期待される企業として今後も成長してまいります。

日清オイリオグループ株式会社  
代表取締役社長

今村隆郎

## 特集1

# 多様な人材が活躍できる職場へ

中期経営計画“GROWTH 10 フェーズⅡ”がスタート  
事業のグローバル展開を支える人材育成 ～事例：ISF社における従業員の活躍～



ISF従業員の笑顔

“GROWTH 10 フェーズⅡ”において当社グループは、高齢化の進行による消費の減退と不況に伴う低価格志向が続く国内の製油業界で厳しい競争に挑む一方で、原料産地や消費地に近い生産拠点としての優位性と成長市場としての可能性の両面から、グローバル展開をすすめ、海外における当社グループの存在感を高めることが重要であると捉えています。

事業のグローバル展開をすすめるためには、グローバルな環境で成長し活躍できる人材が重要となります。そのため当社では、多様な人材が経営理念や経営戦略を共有しながら、自己の持つ能力を最大限に発揮し活躍できるよう、職場づくりと人材の育成をすすめています。

日本国内では、グローバル人材育成の教育体系に則りさまざまな教育制度を充実させています。また、若い従業員を中心に、海外で働くことによってグローバルな感覚を肌で感じて成長する機会を提供しています。海外グループ会社では、各地の従来の人材育成施策に加え、日本で現地従業員が生産技術や安全衛生ノウハウなどを学び、本国での業務に活かすための研修も実施しています。

特集1では、日清オイリオグループのグループ会社でマレーシアのパーム油加工会社INTERCONTINENTAL SPECIALTY FATS SDN. BHD.(以下 ISF)の事例を中心に、従業員の活躍を支援する取り組みを報告します。

# さまざまな機会を活かし成長する従業員

## 海外グループ会社をベースにグローバル化を進展

2005年に日清オイリオグループは、マレーシアのパーム油加工会社であるISFに資本参加しました。ISFでは、スペシャリティファット\*を中心に製造・販売していましたが、そこに当社の油脂加工技術が加わることでさらに多様な商品を作ることが可能となりました。

また、ISFでは多民族国家というマレーシアの背景により多様な人材が共に働き、世界中の顧客を相手に事業展開を進めているという点では、当社にない経営基盤もっています。ISFなどの海外グループ会社を「グローバル化の窓口」と位置づけ、海外の現地経営を通じて海外事業展開を加速していきます。

## 国の枠を超えた活躍

「SEIRI(整理)」「SEITON(整頓)」「SEISO(清掃)」「SEIKETSU(清潔)」「SHITSUKE(躰)」

「S」の文字から始まるこれらの言葉は、職場環境向上を目指して行われている「5S活動」の標語です。5S活動は、元々日本独自の活動でしたが、今ではこの標語とともに世界に広がる活動になっています。日本で研修を受けたISFの従業員によって現地にも導入されています。新しい生産技術や工程管理技術の導入、従業員のスキルアップにも現地従業員が活躍しています。一方、海外拠点で働く日本人駐在員も、駐在という経験を通してグローバルな感覚を養い、現地でリーダーシップを発揮しています。

### ● 現地従業員の声

#### 日本の信頼を マレーシアにも

Head of Quality  
Management & Food  
Safety Department  
(品質管理・食品安全部門長)  
**Pung Kian Sin**



私は2008年、日本の労働安全衛生の取り組みを学ぶため、横浜磯子事業場と堺事業場の生産設備を見学しました。初めて訪れた日本の工場は清潔で整然としており、現場の従業員たちが職場環境に厳しく気を配り、強い責任感とチームワークで業務を行っていることに深く感銘を受けました。こうした背景に「5S活動」の取り組みがあることを知り、ISFにも導入したいと強く思い、帰国後社内へ提案しました。2009年にはDengkil工場で5S活動を始めることができ、従業員が理解するまで熱心に説明しました。

5S活動は、表現がシンプルで実用的なためISFでも応用することができましたが、もともと5S活動が浸透している



日本とは違い、従業員に理解してもらうまでには工夫や努力が必要でした。導入後、従業員の意識は少しずつ変化し、清潔に維持された工場には、取引先も満足していただき信頼を得ています。現在は活動状況のモニタリングや、年に2回の大掃除のほか、廃棄物の分別も始めました。今後も日本と連携を図り、業務に活かしていきたいと思っています。

### ● 日本人駐在員の声

#### 海外駐在を通じて グローバルな感覚を磨く

Manager  
Manufacturing  
(製造部門マネジャー)  
**横山 英治**



私は中国とマレーシアに、合わせて約5年間駐在し、工場の建設や生産管理に携わってきました。駐在して最初に難しさを感じたのは、現地の人々との意思疎通です。取引業者やスタッフ、オペレーターと仕事を進める上で、言葉の違いもあり、自分の考えがきちんと伝わらず結果としてトラブルになることが度々ありました。自分の考えを理解してもらうためには、言葉だけでなく絵やジェスチャーなど、具体的に見える形にして繰り返し伝えることが必要だと痛感しました。また、日本の常識は必ずしも海外では通用しません。時間、品質、金銭などの感覚は国によって異なります。こうした常識の違いを認識したうえで、物事を進め



なくてはならないのです。失敗の連続でしたが、一つひとつ克服する中で、現地の仕事の進め方に合わせ、さまざまな事態を予測し準備する能力が身に付いたと感じています。仕事をスムーズに進めることができた時には、大きな達成感を味わっています。

今では、日本と海外それぞれの違いを客観的に見ることもできるようになりました。現地従業員と話し合い、この国に合ったやり方に応用しながら「KAIZEN活動」を継続しています。駐在を通じて得た経験を自信として、現地の従業員とともに成長していきたいと思っています。

\*チョコレート用油脂など、パーム油をベースに特徴的な機能を実現した油脂

## 多様性を尊重した職場環境

### 多民族文化を尊重

ISFのあるマレーシアは、マレー系・中華系・インド系等で構成される多民族国家であり、それぞれの民族が持つ宗教、生活習慣の融合が独特な文化を生み出しています。公用語はマレーシア語ですが、多民族国家のため中国語やタミール語も使用されています。ビジネスの場面では主として英語が使用されています。

日清オイリオグループはISFへの資本参加後も、このようなマレーシアのバックグラウンドを尊重し、文化や宗教、風俗習慣を大切にしなければならないと考えています。

ISFでは、日本人駐在員だけでなく、現地の人材が経営の一翼を担うとともにあらゆる部門で幹部として起用されています。現地従業員は、事業戦略に関わることはもちろん、市場ニーズの把握から商品開発、製造に至るまで全員が主役となって活躍しています。



### コミュニケーションにも力を入れる

また、働きやすい職場づくりのためには従業員の連帯感と働きがいが必要と考え、コミュニケーションの場として従業員が参加できるイベントを実施しています。2010年は、スポーツクラブ主催のボーリング大会やセバタクロー大会を開催し、従業員全員参加の夕食会(アニュアルディナー)を開いています。



従業員が参加するセバタクロー大会

## topics

### さまざまな宗教・生活習慣に対応して

ISFの社員食堂では従業員の宗教や嗜好に配慮したメニューを用意し、安心して働くことのできる環境をつくっています。マレー系の人々を中心に広く信仰されているイスラム教では、イスラム法上食べてはいけないものが決まっているため、戒律に従って処理や加工、輸送、保存された「ハラール(イスラム法上“合法である”の意味)」食品を食べます。ISFでは、マレー系、中華系、インド系それぞれの民族の料理を揃えているほか、礼拝のための部屋を設けることによって、すべての従業員が力を発揮することができる職場環境を整えています。



ISFの社員食堂



# 共通認識としてのCSR

## 各国でグループ経営理念を共有

多様性を尊重する一方で、グループ一体となって目標に向かうためには、基本となる経営理念を共有することも重要だと考えています。そこで海外を含めた日清オイリオグループ全体の行動指針として「日清オイリオグループ行動規範」を制定しています。この「日清オイリオグループ行動規範」は、各国の言語に翻訳されており、

海外グループ会社においても従業員を対象に読み合わせ会を実施し理念を共有しています。ISFでも、2008年にマレーシア語と英語に翻訳された「日清オイリオグループ行動規範」を制定し、日清オイリオグループの経営理念の実現に向けた行動指針であると同時に、CSRに対する取り組みの行動指針として明文化しています。

## ISFの主体的なCSR活動

ISFは2009年にCSR委員会を設置し、従業員への行動規範の浸透やCSRセミナーの開催、CSR広報誌の発行など、CSR活動に関する啓発活動に取り組んでいます。2010年には、近隣国シンガポールの大学生を招待して工場見学を実施するなど、積極的に地域社会と交流しています。また、昼食時の消灯、節電など全社的な省エネ活動も行っています。今後もCSR委員会が中心となり、社内外に向けたCSR活動に積極的に取り組んでいきます。

昨今、欧米を中心にビジネスの場面においても、お客様からより高いレベルのCSR経営が求められてきています。ISFでは製造現場での倫理的な労働慣行に関するデータを共有するためのデータベースSedex (The Supplier Ethical Data Exchange)に参加しています。今後もCSR委員会を中心に、ステークホルダーの皆様からの信頼と期待に応えることを主眼に、ISFらしさを活かしたCSR活動に積極的に取り組んでいきます。



マレーシア語・英語版と中国語版 行動規範冊子



CSRセミナー

## グローバル企業の厳しいCSR 経営要求に応える

お客様から当社のようなサプライヤー(購買先)に対する要求事項は、これまでのように品質や納期に対してだけでなく、経営全般に拡大されています。端的に言って、それは、モノづくりにおいてだけでなく、サプライヤーの経営姿勢に対するCSRの要求であり、具体的には法令遵守、安全衛生、福利厚生、雇用、賃金、従業員教育、差別排除、環境保護など多岐にわたる事項がお客様の規定水準を満足しているか、現場査察、面談、書面によりモニタリングされます。これはサプライヤーの国や事情に関わらずグローバルに要求されるものであり、「グローバル経営」とは、自社の置かれたローカル経営環境の制約を克服し、世界各国のお客様から期待されるCSR経営に挑戦することであると、私は認識しております。

私は、ISFが、欧米の優良企業をはじめとした各国のお客様から、ご注文とともに厳しい要求をいただくことを誇りにしております。ISFはそれらの要求の一つひとつと真摯に向き合い、スペシャリティファットの取引を通じ、「グローバル企業」として成長いたします。

Chief Executive Officer (最高経営責任者)  
INTERCONTINENTAL SPECIALTY FATS SDN. BHD.(ISF)  
薄井 務



## フェーズⅡのカギを握る加工油脂事業 あぶらの可能性を広げる加工油脂の世界

ISFが得意とする加工油脂事業についてご紹介します。

### 身近な食べ物に使われている加工油脂

加工油脂とは、ひとことで言うと「パンやお菓子などに原材料として用いられる油脂」。天然の油脂をさまざまな方法で加工することによって性質を改良し、その用途を大幅に広げることを可能にしています。

日清オイリオグループの加工油脂事業では、当社独自の技術を駆使し、多様なニーズに応える高付加価値な加工油脂製品を展開しています。具体的には、チョコレートに用いられるココアバターの代わりとなる油脂、パンに使用されるマーガリン、お菓子の材料に使われるショートニングなどがあり、これらの加工油脂は私たちの食生活のさまざまな場面で“おいしさ”を提供しています。



チョコレート用油脂

チョコレート



マーガリン

パン



ショートニング

クッキー



フライ油

ドーナツ

### ニーズが高まるチョコレート用油脂

世界のチョコレート市場は、近年、欧米だけでなく中国やインド、南米、ロシアなど、新興国でも需要が増えています。

チョコレートには、ココアバターやココアバターの代わりとして植物由来の加工油脂(チョコレート用油脂)が使われています。チョコレート用油脂の原料には、主にシアバターなどの油脂が使われていますが、これらの油脂は、供給が不安定で価格が変動しやすいことが課題となっています。

この課題に対し当社は、自社保有の技術とISFの技術を融合させ、パーム油やひまわり油を原料にした安定供給を可能にするチョコレート用油脂の製造を実現しました。

また、チョコレートがパンやアイスクリーム、クッキーなど、さまざまな用途に使われるようになり、「焼いても溶けない」、「常温ですぐ固まる」などココアバターだけでは実現できない、高度な機能を持つ新たなチョコレート用油脂が求められるようになりました。こうした多様なニーズに応えるため、当社グループはさらなる技術開発を進め、高品質・高機能なチョコレート用油脂を供給しています。

(チョコレート用油脂については、2010年版CSR報告書の特集にも詳しく説明しています。ぜひご覧ください。)

### 加工油脂事業の強化

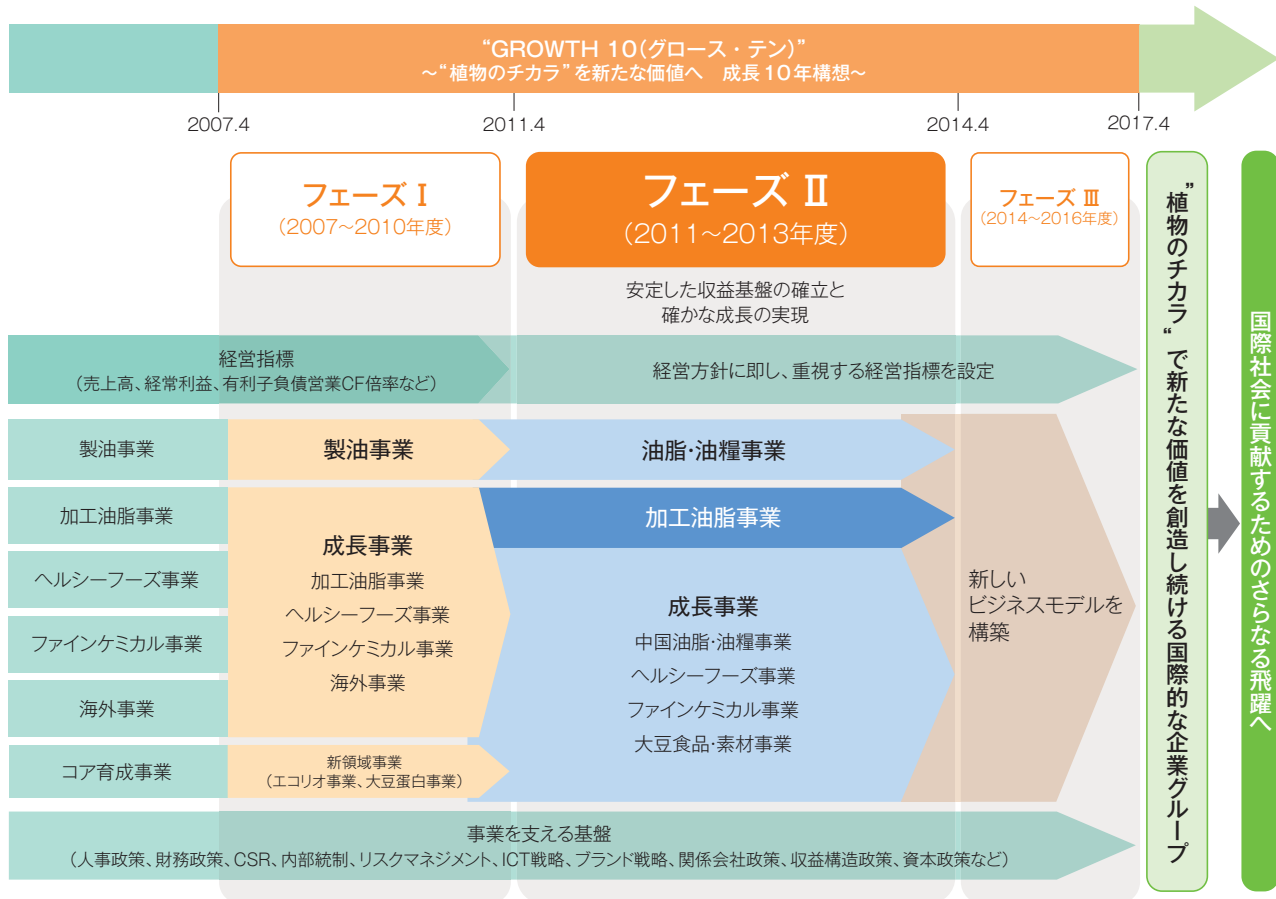
“GROWTH 10 フェーズⅠ”(2007~2010年度)では、当社グループの加工油脂事業は、ISFの設備増強、大東カカオ(株)およびT.&C. MANUFACTURING CO., PTE. LTD.への資本参加、また、山崎製パン(株)、ミヨシ油脂(株)との業務提携を実現するなど、商品開発、製造技術、販路開拓において事業の基盤を構築しました。

2011年度から始まるフェーズⅡにおいて、チョコレート油脂事業を含むパーム油事業と、製菓・製パン・食品加工素材事業を拡大することによって、加工油脂事業を油脂・油糧事業と匹敵する収益規模にすることを目指します。



# 中期経営計画“GROWTH 10 フェーズⅡ”

“GROWTH 10”は2007年度から2016年度の10ヵ年経営基本構想であり、“植物のチカラ”で新たな価値を創造し続ける国際的な企業グループとなるための指針です。2011年度から2013年度までの“GROWTH 10 フェーズⅡ”では、事業構造を変革し、安定した収益基盤の確立と確かな成長の実現を基調としています。



## 目指す姿

フェーズⅡ完遂時には、「新たな価値を創造し続ける国際的な企業グループ」へ飛躍するため、事業構造の変革を成し遂げている。

### 事業戦略

1. 油脂・油糧事業      マーケット志向、利益志向を基調に価値や質重視への体質転換を図る
2. 加工油脂事業      国内外に資源を重点投入し、第2の収益事業を実現する
3. 成長事業      第3の収益事業実現のための次期成長への布石を打つ

## キーワード

「利益志向」「技術重視」「海外市場開拓」

「食からファインケミカルまで幅広い事業分野で世界に展開する植物油脂総合メーカー」へ

## 特集2

# 世界の飢餓をなくすためにできること

～食に携わる企業として～



### 国連WFP協会との取り組み

当社グループは、「食の恵み」を享受する企業として、さまざまな食を通じた社会貢献活動を行っています。世界ではなお多くの人々が食糧不足に苦しむなか、すべての人々が健康で豊かな生活を実現できるよう支援する活動も、当社グループの社会的責任だと考え、「飢餓と

貧困の撲滅」を使命とするWFP 国連世界食糧計画（以下WFP）の活動に賛同しています。2005年からその公式支援窓口である国連WFP協会の評議員として支援を続け、従業員の輪も広がっています。

### WFP(国連世界食糧計画)とは

現在、世界にはおよそ7人に1人、計9億2,500万人を超える人が飢餓に苦しんでいます。WFPは「飢餓と貧困の撲滅」を使命とする国連唯一の食糧支援機関です。紛争・災害時の緊急支援や子どもたちの健全な発育と就学率の向上を目指す学校給食プログラムなどの活動に取り組んでいます。2009年、WFPは75カ国において1億180万人に食糧支援を実施しました。WFPの活動費は各国政府からの任意拠出金と民間企業や団体、個人からの募金でまかなわれています。



©WFP/David Orr



左:ウォーク・ザ・ワールド参加者  
右:学校給食プログラムで支援を受ける子どもたち ©WFP/Mario Di Bari

取り組み

1

## 飢餓問題解決に向けて 「ウォーク・ザ・ワールド ～地球のハラペコを救え～」

「大勢の参加者と一緒に歩くことで、一人ひとりの小さな支援も集まれば大きな力になることを実感しました。飢餓問題の解決にも自分なりに協力できることがあるんですね。」これは参加した当社従業員の声です。

2010年6月6日、第6回目となるWFPのチャリティイベント「ウォーク・ザ・ワールド」には、初夏の爽やかな青空のもと、一般参加者約3700人、当社グループ従業員やその家族・友人、グループ会社の従業員からは91人が集まり、山下公園や港の見える丘公園などの横浜ベイエリアを歩きました。親子で和気あいあいとウォーキングする姿や、気温が高いなか早々と完歩しゴール地点で声援を受ける姿も見られたりと、それぞれのスタイルでチャリティに参加しました。

「ウォーク・ザ・ワールド」は、子どもたちの飢餓をな

くすことを目的に、世界約70カ国で同日・同時刻に開催され、30万人以上が参加する地球規模のチャリティイベントです。当社グループは、2007年からこのイベントを支援しており、参加者も年々増えています。これからも多くの従業員の協力のもと、支援を続けていきます。





講演会で飢餓について話す国連WFP協会職員石川さん



横浜磯子事業場でのWFPパネル展



熱心に耳を傾ける従業員

## 社会貢献活動参加のきっかけづくり

当社グループは、会社が中心となるだけでなく従業員の自発的な活動も一体となった社会貢献活動を進めています。WFP支援が従業員の社会貢献活動参加のきっかけとなることを願って、WFPの活動についての社内広報活動も積極的に行っています。

2010年4月には、国連WFP協会から講師をお招きし、イベント開催地に近い横浜磯子事業場で飢餓の問題について講演会とパネル展示を開催しました。講師からはWFPの「学校給食プログラム」が紹介され、「子どもたちは、カップ一杯の学校給食をととても楽しみにしています」との言葉に、参加者はスクリーンに映し出された子どもたちの表情をじっと見つめていました。また、「WFPの

学校給食プログラムにも食用油が使用されているのですね」との驚きの声も聞かれました。同時開催されたパネル展示では、写真や地図でWFPの活動がわかりやすく紹介され、飛行機から支援食糧が投下される様子や、世界の飢餓人口統計などの前で、多くの従業員が足を止めていました。

こうした機会を通じてWFPへの関心が高まり、2010年の「ワーク・ザ・ワールド」には前年に比べ4割多い従業員が参加しました。年々、このイベントを通じてささやかながらも社会貢献に参加できることを楽しみにしているファンが増えています。

### 参加者より

「地球のハラペコを救え。」という同じ目的に向かい、世界中の人々が一つになって歩くことに惹かれて参加しました。自分の踏み出した一歩は豆粒のように小さなものですが、ハラペコを減らすという夢の実現に向けて、自分のできることからコミットしてゆきたいと考えます。



日清オイリオグループ 海外事業部  
中島 香さん

### WFPより

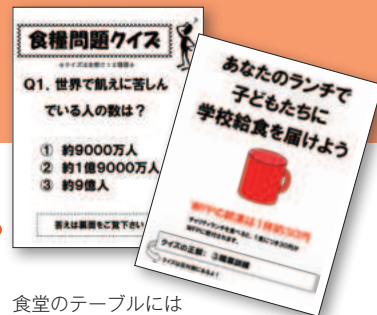
従業員の方のボランティア参加や、社内・社外におけるWFPの広報活動の実施など、全社一丸となりWFPを支援して下さっていることに心より感謝しております。今後も引き続き、食や健康をテーマとした御社ならではの取り組みを通じて、WFPを継続的にご支援いただけますようお願いいたします。



特定非営利活動法人  
国際連合世界食糧計画WFP協会  
石川 莉紗子さん



チャリティランチを食べる従業員



食堂のテーブルには食糧問題についてのクイズ



チャリティランチ(チュニジア風トマトと豆のシチュー&ブリック)

取り組み

飢餓の問題を身近に

2

「チャリティランチ～食堂で社会貢献～」

アラブと南仏の文化が融合されたほんのりスパシーなチュニジア風トマトシチュー、野菜から出る水分とココナッツミルクで煮込んだモザンビーク風ホウレンソウとチキンのココナッツカレー。社員食堂には珍しい、アフリカの料理がランチメニューに用意されました。いつもとは違う食堂に従業員も興味津々、珍しいランチを食べようと行列ができました。また、食堂内のテーブルには食糧問題について問うクイズの書かれた卓上ポップが置かれ、クイズの解説にうなったりして従業員の会話に花が咲きました。これは、国連が制定した世界の食料問題を考える日「世界食料デー」に合わせて2010年10月18日～22日の5日間、本社の食堂にて行われた「チャリティランチ」のひとつです。

「チャリティランチ」とは、ランチ1食(480円)の購入代金から30円が国連WFP協会に寄付され、飢餓に苦しむ子どもたちに1食分の給食を届けられるというものです。“食べた人も健康に!”、“アフリカを身近に感じよう!”をコンセプトにアフリカ料理やヘルシー料理が販売されました。普段とは違った新鮮なフレーバーが食堂

にあふれ、従業員は笑顔でチャリティに参加しました。

期間中、賛同した従業員の協力と会社からのマッチングをあわせた寄付は、子どもたちへの学校給食約300食分になりました。

まずは身近な社会貢献活動に参加することから飢餓問題への関心を高め、支援の輪を広げていくことが大切だと考え、今後も取り組んでいきます。

食堂より

企業の食堂などを受託運営する弊社では、普段からさまざまな事業所でTABLE FOR TWOやエコキャップ回収など、世界の飢餓問題に取り組んでいます。今回の「チャリティランチ」は、アフリカンでヘルシーなメニューとのご要望をいただき、日本人の舌にも合うよう、アレンジに試行錯誤しました。世界の飢餓問題についても改めて理解でき、勉強になりました。このような機会をいただき、ありがとうございました。



ジャパンウェルネス株式会社  
営業本部 第2営業部  
第6グループ マネージャー  
原田 信子さん

# 日清オイリオグループのCSR

経営理念の実現を通じてステークホルダーの皆様の期待と信頼にお応えすることが、私たちにとってのCSRです。

## CSRの取り組みの基本方針

### 意義・目的

- ・ CSRとは、あらゆるステークホルダーとの関わりを重視し、「法的な責任を果たすこと」はもちろん、安全で安心できる商品・サービスの安定的な提供、環境問題への取り組み、社会貢献、情報開示など、「あらゆるステークホルダーからの期待に応えること」です。
- ・ 日清オイリオグループにとって、経営理念の実現そのものが、CSRに対する取り組みに直結するものです。
- ・ 日清オイリオグループは、CSRに対する主体的な取り組みによって、あらゆるステークホルダーからの信頼・共感の維持・向上を図り、企業の持続的発展、企業価値の向上を目指します。

## ステークホルダーへの取り組み

日清オイリオグループは、2005年にCSRに対する取り組みの基本方針を定めた際に、主たるステークホルダーをお客様、取引先、株主・投資家、従業員、社会、環境とし、ステークホルダーごとにCSRの方針を策定し、取り組んでいます。



お客様



取引先



株主・投資家



従業員



社会



環境

## 国連グローバル・コンパクトへの参加

日清オイリオグループは、2011年7月、国連の提唱する「グローバル・コンパクト」に参加しました。グローバル・コンパクトは「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野について組織が遵守すべき普遍の原則を示したものです。

グローバル企業を目指す当社グループは、グローバル・コンパクトの理念を取り入れることでCSRの取り組みをさらに推進し、ステークホルダーからの信頼に応えていきます。今後は、10原則の社内浸透を図るとともに、事業活動そのものへの導入に向けてすすめていきます。



### 国連グローバル・コンパクトとは

グローバル・コンパクトは、1999年国連事務総長（当時）のアナン氏が提唱した、各企業が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みです。

### ● 国連グローバル・コンパクト 10原則

人権	原則 1：人権擁護の支持と尊重 原則 2：人権侵害への非加担
労働	原則 3：組合結成と団体交渉権の実効化 原則 4：強制労働の排除 原則 5：児童労働の実効的な排除 原則 6：雇用と職業の差別撤廃
環境	原則 7：環境問題の予防的アプローチ 原則 8：環境に対する責任のイニシアティブ 原則 9：環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止	原則 10：強要・賄賂等の腐敗防止の取組み





## お客様のために

「おいしさ・健康・美」を追求した、安全・安心でお客様にとって価値ある商品・サービスを安定的にご提供し続けます。お客様の声を絶えずお聞きして、“植物のチカラ”を、独創的な技術で商品・サービスに活かしていくとともに、お役に立つさまざまな関連情報を常に発信していきます。

2010年度CSR取り組み課題	達成状況 (自己評価)	2011年度CSR取り組み課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>品質マネジメントシステムの有効性の強化</li> <li>消費者ニーズと当社コア技術の融合による新しい価値の創造</li> <li>食の安全・安心の担保へ向けた技術開発と情報開示(トランス脂肪酸など)</li> </ul>	◎ 達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質マネジメントシステムの有効性の強化</li> <li>消費者ニーズと当社コア技術の融合による新しい価値の創造</li> <li>食の安全・安心の担保へ向けた技術開発と情報開示</li> </ul>

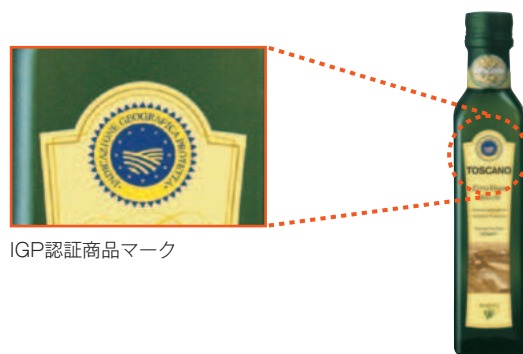
### オリーブオイルの品質へのこだわり

オリーブオイルの風味や品質は、同じ品種でも生産地域の土壌やその年の気候によって異なります。当社は発売より15年間、ご愛顧をいただいているBOSCO(ボスコ)オリーブオイルの風味高い品質をお客様にお届けするため、定期的に産地を訪問し、その年のオリーブ果実の作柄の確認や、現地工場の品質管理状況の視察を行っています。また、オリーブオイル公的認証の取得にも積極的です。

「BOSCO(ボスコ)トスカーナ エキストラバージン オリーブオイル」は、産地と品質にこだわり、EUの特産品認証制度である「IGP\*」を取得したオリーブオイルです。トスカーナオイル生産者協会が定める、より厳しい品質管理基準をクリアしています。IGP認証を受けるためには、登録農家で栽培されたオリーブの実を収穫から24時間以内に搾油し、搾油直後の酸度が0.6%以下のエキストラバージンオイルでなければなりません。

また、「トスカーナ エキストラバージン オリーブオイル」は、ネックラベルに印字されたシリアルナンバーと容量を、トスカーナオイル生産者協会が提供するホームページ(<http://www.oliotoscanoigp.it/ita/tracciabilita.html>)に入力すると、その製品が瓶詰めされた工場や搾油所、原料オリーブの栽培者といったトレーサビリティ情報を確認することができます。このような詳細な情報が公開できるということは、製品の品質についての揺るぎない自信の証でもあります。

※ IGP: イタリア語の Indicazione Geografica Protetta (保護指定地域表示あるいは地理的表示保護と訳されます) の略語。



IGP認証商品マーク

トスカーナ エキストラバージン  
オリーブオイル250ml

### “植物生まれ”の食品機械用潤滑油 「エステローラF」

当社は、環境・社会に役立つ“植物のチカラ”を、非食用分野へも活用するべく、開発を強化しています。2010年7月に発売した食品機械用潤滑油「エステローラF」は、食の安全・安心に対する生産部門の取り組みと潤滑油用ベースオイルの開発技術によって生み出された植物由来の機械用潤滑油です。

食品製造に関わる機械の潤滑油は、食品に触れる可能性があることから、高い安全性が求められます。「エステローラF」は、植物由来の食用油脂と食品添加物だけで作られており、無色無臭で安全性が高く、万が一食品が触れる箇所でも安心して使用できます。また、酸化安定性が高く、長期にわたって使用可能な環境にもやさしい潤滑油です。

食品機械用潤滑油のスタンダードであるNSF\*1のH1グレード\*2に登録されています。

※1 NSF (National Sanitation Foundation) : 1944年に設立された公衆衛生機器に関して試験認定を行う国際的な公益団体

※2 食品と偶発的に接触する可能性のある箇所での使用が認められている潤滑油



## 取引先とともに

フェアネス(公平・公正)に基づいた相互信頼のパートナーとしての関係を築き、共同で商品や市場を開発し、共に成長していきます。

2010年度CSR取り組み課題	達成状況 (自己評価)	2011年度CSR取り組み課題
・外部パートナーとの協力・提携による新技術開発、用途開発の推進 ・資材メーカーなどと連携した容器品質の向上	◎ 達成	・サプライヤーおよび取引先との共同による、顧客・消費者の立場に立った新技術開発および商品の開発

### 豆腐の規格外製品を無駄なく利用

当社グループの子会社で、品質にこだわった豆腐の製造・販売を行っているもぎ豆腐店(株)では、部分的な型崩れなどをおこして通常の商品として店頭には並べられない製品(はねだし品)を地域のスーパーの皆様の協力を得て、白和えなど惣菜の食材としてご利用いただいています。

### 韓国でトロミ調整食品を共同開発

高齢や病気によって食べ物・飲み物を飲み込むのが難しい場合、食品にトロミをつけることで飲み込みを容易にすることができます。当社は、食品にトロミをつける

トロミ調整食品「トロミアップ」を1991年に発売して以来、医療・介護関係者のご意見を伺って改良を続け、高い評価をいただけてきました。一方で、高齢化は世界中ですすんでおり、トロミ調整食品が貢献できるフィールドもひろがっています。2010年7月、当社は韓国の大象(デサン)株式会社\*と共同で、トロミ調整食品「ニューケアトロミパーフェクト」を開発し、韓国で発売しました。

\*大象(株)は食品事業などを韓国だけでなく東アジアで幅広く展開しています。



ニューケアトロミパーフェクト



## 株主・投資家の皆様とともに

健全な成長と安定した企業業績のもとで、株主様との双方向コミュニケーションの推進による良好な関係を築きながら、株主価値の向上、適切な利益還元に努めます。また、広く投資家の皆様に向けて、適切な情報開示を行います。

2010年度CSR取り組み課題	達成状況 (自己評価)	2011年度CSR取り組み課題
・株主・投資家の皆様への情報発信とコミュニケーションの強化 ・海外投資家の皆様への情報発信とコミュニケーションの強化	◎ 達成	・株主・国内外投資家の皆様への情報発信とコミュニケーションの強化

### 個人投資家の皆様とのコミュニケーション

全国の証券会社支店にて会社説明会を開催し、約980名の個人投資家の皆様当社の事業領域、経営戦略、健康に関する取り組みなどについてお話ししました。

#### セミナー実施例

- ・IRセミナー  
「“植物のチカラ”でおいしさ・健康・美を追求」
- ・健康セミナー  
「耳よりな健康情報と食生活の知恵  
～体脂肪を測ってみませんか?～」

### 株主様工場見学会

2010年9月に、第4回目となる株主様工場見学会を、横浜磯子事業場で開催し、抽選により株主様と同伴の方あわせて79名の方にご参加いただきました。

バスで構内を回る工場見学では、ミニプラントによる搾油・精製実験も行い、わかりやすいとの好評をいただいています。

見学終了後は、当社社長以下取締役が参加しての懇談会を開催し、当社商品を使用した料理をご賞味いただくとともに、当社事業についての展示もご覧いただきました。



## 従業員とともに

時代に合った働きやすい環境を整え、持続的に従業員が自己の成長を感じられる働きがいのある、いきいきとした安全で衛生的な職場を実現します。

2010年度CSR取り組み課題	達成状況 (自己評価)	2011年度CSR取り組み課題
・「人材・組織競争力の最大化」および「安心かつ働きがいのある職場づくりと業務改革による生産性向上」の推進	◎ 達成	・「人材・組織競争力の最大化」および「安心かつ働きがいのある職場づくりと業務改革による生産性向上」の推進

### ライフプラン支援

当社では、会社と労働組合の相互出資により、自己開発教育への補助などを行うNLF制度を設けています。その一環として、従業員一人ひとりがしっかりとしたライフプランの設計に取り組むことを目的としたライフプランセミナーを毎年開催しています。

2010年度は、総合的なライフプラン設計を行う宿泊型セミナー(30名参加)と年金、生命保険といった個別テーマに特化した公開型セミナー(74名参加)を開催しました。

### ワークライフバランスと次世代育成の支援

少子化が進行する中で、当社は「次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、成長する環境づくり(次世代育成支援)」を重要なテーマと位置付け、積極的な取り組みを進めています。

2009年~2010年度の2年間における次世代育成行動計画の実行によって、厚生労働省が子育てサポート企業として認定する「次世代認定マーク(通称：くるみん)」を

取得しました。2011年度以降においても、「次世代認定マーク」の取得を目指し、次世代育成行動計画を推進していきます。

#### 次世代育成行動計画 (2011年度~2014年度)



##### 1. 計画期間

2011年4月1日~  
2015年3月31日(4年間)

##### 2. 行動計画目標

- 目標 1: 男性社員の育児休職の計画期間内2人以上取得
- 目標 2: 育児休職をより取得しやすくすることを目的とした新たな制度の導入、当社の育児・介護関連諸制度の情報を従業員に周知することによる制度の利用促進
- 目標 3: 総実労働時間短縮を主眼とした新たなワークライフバランス施策の実施

### 海外セミナー「生産性の船(上海・シンガポール)」 参加者レポート

「行動変革への挑戦」をメイン・テーマとした公益財団法人日本生産性本部主催の「生産性の船」に参加しました。このセミナーは全8日間の日程で、洋上研修(4日間)と寄港地活動(4日間)のプログラムで活動をしました。洋上研修では異なる業種で異なる経験を持つ220名が、ブロック・チーム単位に分かれ、それぞれの現状と問題意識の中から課題を設定し、その達成に向けて討議を重ねました。また、船上という非日常的な環境の中に身を置き、日常の固定観念から開放されることで、自分を見つめ直す機会を持つことができました。

寄港地活動では、経済成長の目覚ましい万国博覧会開催に沸く中国上海を視察し、またアジア屈指の先進国であるシンガポールでは産業視察、自主研修を行うことで、アジア発展の軌跡と現状を肌で感じる事が出来ました。

この研修を通じて得た経験と再認識できた自分の位置づけ、役割をもとに今後の業務に取り組んでいきたいと思えます。

水島工場製造グループ抽出チーム  
山口 正人





# 社会のために

良き企業市民として地域社会に貢献するとともに、国際社会の一員としても良好な企業活動や積極的なコミュニケーションを図り、社会とともに発展していくよう努めます。

2010年度CSR取り組み課題	達成状況 (自己評価)	2011年度CSR取り組み課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>「社会貢献方針」をさらに強力に推進するための社会貢献基準の策定</li> <li>国連WFP協会との連携強化、社内ボランティアの活動支援</li> </ul>	◎ 達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>国連グローバル・コンパクト参加企業としてのグローバルCSRの社内浸透</li> <li>国連WFP協会との連携強化、社内ボランティアの活動支援</li> </ul>

## 東日本大震災 被災者支援活動

東日本大震災で被災された皆様には、社員一同心よりお見舞申し上げます。

当社では、被災者支援のために義援金5千万円の寄付を行いました。また、他の経済団体や行政とも力を合わせ、当社の栄養調整食品や介護用食品、食用油などを提供したほか、卓球の福原愛選手(ANA)とともに被災地仙台へ当社商品をお届けしました。さらに、地域の皆様にもご協力をいただき、従業員による自主的な商品販売を通じたチャリティ活動も行われました。

## ファミリー向け食育体験イベントの実施

当社は「植物のチカラ」をテーマとしたファミリー向け食育イベントを実施しています。2010年には6月に「野菜収穫とピザ作り」、11月には「植物のチカラ」体感ツアーを開催しました。「植物のチカラ」体感ツアーでは、千葉県君津市で、親子での野菜や大豆の収穫体験に続き、豆乳とおからドーナツをつくる盛り沢山の内容で、家族で食に親しむ機会となりました。



豆乳やおからドーナツづくり

## 横浜F・マリノス 親子サッカー教室を共同主催

2011年2月、横浜市のマリノスタウンにて、当社が共同で主催した「横浜F・マリノス親子サッカー教室」が開催され、抽選で当選した43組の親子にご参加いただきました。横浜F・マリノスのふれあいプロジェクトコーチ陣の指導に続き、ミニゲームが行われ、真剣にボールを追う親子のふれあいの姿がみられました。



親子サッカー教室

## 愛知県「企業の森づくり」への参加

当社名古屋工場は、新しい自然保護活動「企業の森づくり」をスタートしました。「企業の森づくり」とは、愛知県と企業が協定を締結し、企業が県有林で森林整備・保全活動を行うもので、活動に携わる人々の情報交換や人的交流を通じて、県と県民・企業が協働する森づくりを目指しています。

1ヘクタールの県有林を活動区域に、今後3年間、森林整備や遊歩道の美化、環境教育等を行います。2010年度は、2回にわたり、NPO法人「穂の国森づくりの会」のスタッフに指導を受けながら、草刈りや小樹木の剪定を行いました。

## 事業活動と一体となった社会貢献

当社のヘルシーフーズ事業は、ドレッシング・マヨネーズ類の販売に加え、健康食品市場や高齢介護市場において当社が培ってきた技術を応用した商品をお届けし、健康づくりや食べる楽しみを提案しています。今後もより多くの皆様に役立つ食品の提供を通じて、健康的で美しい生活(Well-being)を提案していきます。

### ヘルシーフーズ事業の展開領域



### トロミ調整食品「トロミアップ」シリーズ




「トロミアップ」は、1991年の発売以来、トロミ調整食品の代名詞としてご愛用いただいているロングセラー商品です。また、2005年には、主に飲み物向けとして、透明で素早くトロミがつく「トロミパーフェクト(現トロミアップ パーフェクト)」を商品ラインアップに加え、当社のトロミ調整食品シリーズを広くご愛用いただきました。

「トロミアップ」シリーズはユニバーサルデザインフード(UDF)として、トロミ調整食品をお求めのお客様が商品を選びやすいよう、トロミの目安など日本介護食品協議会の規格に準じた表示をパッケージに記載しています。



トロミアップエース

トロミの目安表の表示例

	+++	++	+
水・お茶に溶かした場合	 フレンチドレッシング状	 とんかつソース状	 ケチャップ状
150mlあたり 目安: コーヒーカップ、ティーカップ	0.75g (1/4本)	1.5g (1/2本)	3.0g (1本)



UDF ロゴマーク

### ありがとう介護研究会

当社は2008年から、「ありがとう介護研究会」を継続的に開催しています。「ありがとう介護研究会」は、「よく生きるとは」をテーマに、在宅介護に関わるご家族やヘルパーなど介護を支える方々に対して、最新情報やコミュニケーションの場を提供し、在宅介護への理解を深めていただくことを目的として活動しています。

2010年度は計2回開催し、いずれも約100名の参加者で会場は満席でした。

- ・ 第4回ありがとう介護研究会(2010年6月26日)  
テーマ: 「よく生きるとは?」  
～グループホームとロコモティブシンドローム～
- ・ 第5回ありがとう介護研究会(2010年11月27日)  
テーマ: 「よく生きるとは?」～介護体験を中心に～





# 環境のために

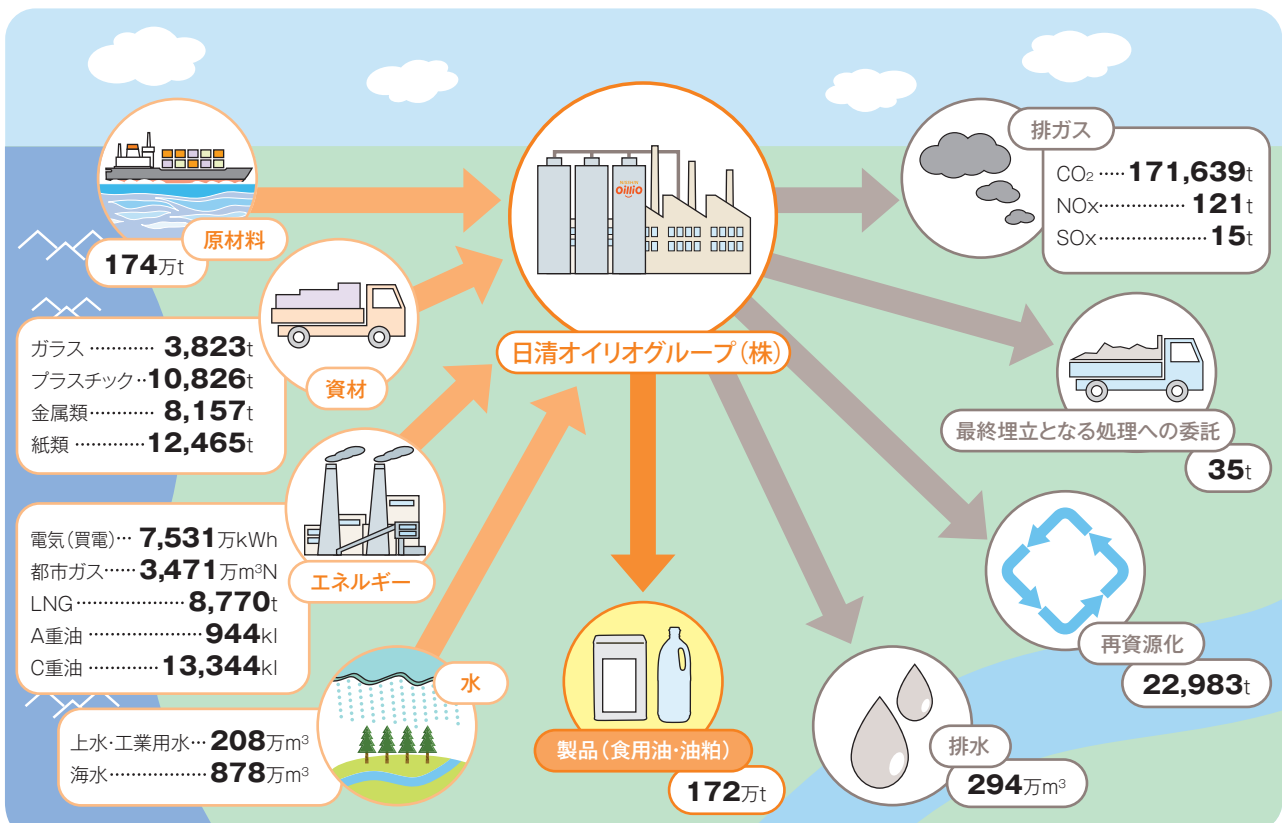
常に未来に向けた技術で“植物のチカラ”を引き出し、原料・資材の調達から生産、納品、ご使用、廃棄にいたるまで、地球環境に配慮した商品・サービスの開発・ご提供を通じて資源循環型社会の構築を目指します。

## 環境目標および評価

評価:○順調に進捗、△未達成・改善が必要

担当部門	テーマ	中長期環境目標	2010年度の実績	実績評価	新中期環境目標
生産	低炭素社会	・生産工程の使用エネルギーについて、「CO <sub>2</sub> 排出量原単位」、2010年度までに88%に改善(1990年度対比)	・CO <sub>2</sub> 排出量原単位：97.0%(1990年度対比)	△	・生産エネルギー由来のCO <sub>2</sub> 原単位を2012年度、1990年度比16%削減
		・生産工程の使用エネルギーについて、「CO <sub>2</sub> 総排出量」を2010年度までに92%に改善(1990年度対比)	・CO <sub>2</sub> 総排出量：84.8%(1990年度対比)	○	・生産エネルギー由来のCO <sub>2</sub> 総排出量を2012年度、1990年度比8%削減
	循環型社会	・2010年度までに、生産工程でのゼロエミッションを達成	・生産工程での再資源化率：99.8%	○	・生産工程でのゼロエミッションを継続
物流	低炭素社会	・特定荷主としてエネルギー使用に係る原単位を5年間で5%以上削減(2006年度対比)	・原単位：100.8%(2006年度対比)	△	・油脂の輸配送に係るエネルギー使用の原単位を2012年度、2010年度比2%削減 対象：(パッケージ品+バルク品)
		・物流品質の向上→物流異常発生率100ppm以下(輸配送)	・物流異常発生率43.2ppm	○	
オフィス	低炭素社会	・オフィスでの電気使用量を2010年度までに3%削減(2006年度対比)	・電気使用量：3.9%増加(2006年度対比)	△	・電気使用量を2012年度、2010年度比で4%削減 対象：(事務ブロック(本社+8支店))
	循環型社会	・コピー用紙の使用量削減(ペーパーレス化、裏紙使用など)	・コピー用紙使用量：1.0%削減(前年度対比)	○	・紙/コピー用紙の使用量削減 対象：(事務ブロック+研究ブロック)
		・紙ゴミの削減(分別化、減量化など)	・紙ゴミ排出量：1.8%増加(前年度対比)	△	・紙ゴミの廃棄量削減 対象：(事務ブロック(支店除く))+研究ブロック)
開発	容器関連	・家庭用・業務用容器包装の減量化、減容化	・容器包装重量：2.7%増加(前年度対比)	△	・2009年度比較、主要プラスチック容器の油1kgあたり樹脂量を削減
	研究・技術	・副産物の有効利用、石油代替製品の開発など	・エコリオ事業開発における取り組み	△	・化石資源の代替 ・未利用資源の有効利用 ・廃棄物の削減

## 資源・エネルギーの流れ(2010年度)



集計範囲:4生産拠点(横浜磯子事業場、名古屋工場、堺事業場、水島工場)の生産工程

## 第三者意見

経済学の祖、アダム・スミスは、パン屋は他者のためではなく、自分の生活のためにパンを焼くのだと述べている。自己の利益のために行動したとしても、マーケットの機能を通じて、結果として世の中に役立つという確信があつての考えであつた。

理論上は確かにその通りである。しかし現実はなかなかそううまくいかないのが世の常である。マーケットがグローバル化して、生産者と消費者の間がとてつもなく遠く、広がった。原料から製品までの工程も複雑化して、「迂回生産」の度合いがさらに高まった。

スミスの時代と異なっているのはそれだけではない。農家や個人経営の小規模な事業から、大規模な事業所による経営が圧倒的に増えたことである。原材料・燃料の購入、労働力の雇用、生産物の販売、その工程で発生する廃棄物など、企業が果たすべき社会的責任は、200年前とは比較にならないほど大きく広がった。

従業員が2700名を超える日清オイリオグループは、184ある日本の村と比較すると、東京都小笠原村を抜いて第101位にあたる規模である。企業は立派なソサエティーなのである。そういう観点からみれば、ワークライフバランスと次世代育成の支援を評価して、厚生労働省の「次世代認定マーク」を取得したことは、うれしい話題である。企業が従業員を大切に、従業員がハッピーでなければ、商品の利用者がハッピーにはなれないだろう。

もう一点、注目すべきは、これまでの国連世界食糧計画(WFP)、海外子会社の「持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)」への参加に加えて、「国連グローバル・コンパクト」への参加を果たしたことだ。グローバル企業として、環境面だけではなく、途上国の社会開発の面でもますます大きな役割を果たしていただけるものとおもう。

少々きびしいことを申し上げる。日清オイリオの商品を購入される方も、資金を提供する株主・投資家の方も、日清オイリオという企業を支えることを選んでいただくという点で、一連の責任を果たさなければならないのである。この報告書を手にされたみなさまが、それぞれのお立場から、よりよい企業とするようご提案をいただきたい。

今年度は東日本大震災からの復興とともにスタートした。今後はこのような大規模災害と復興における対応も、あらかじめ計画に入れた企業の行動が求められるだろう。TVコマーシャルにも城島茂さんと山口達也さんに加え、二宮和也さんを起用した。社長も交代された。直前までCSRを総括するお立場にあつた新社長である。社会を変える企業として、日本の消費者に対して製品の質を向上させることはもちろん、原料供給の地であるとともに、これから成長する市場である途上国に対しても、公益を支える企業として一段と貢献されることを期待する。

### 鬼頭 宏(きとう ひろし)

上智大学経済学部教授。大学院地球環境学研究科教授、地球環境研究所所長、研究機構常設部門長を兼任。

専門分野：経済史・歴史人口学・環境史。

公 職：神奈川県次世代育成支援対策推進協議会副会長、社会保障審議会臨時委員・人口部会委員

主 著：『人口から読む日本の歴史』講談社学術文庫、『文明としての江戸システム』講談社学術文庫、『環境先進国 江戸』PHP 研究所、『2100年、人口3分の1の日本』メディアファクトリー。



### 日清オイリオグループより(ご意見をいただいて)

日清オイリオグループは、1907年の創立以来104年にわたり、日本の社会・経済のうねりとともに成長してまいりました。鬼頭様のご意見のとおり、当社の果たすべき役割と責任も、時代とともに大きく変容している中、CSRを一段と加速し、社会の期待に応え続ける企業であることを目指します。これまででも、当社らしい方法とは何かを考えながら活動を模索してまいりましたが、ステークホルダーの皆様の声に

なお一層耳を傾けてまいります。

本年は中期経営計画“GROWTH 10 フェーズⅡ”のスタートにあたり、先駆的なCSRに挑戦していきます。「社会を変える企業に」とのご期待に少しでも沿えるよう邁進してまいりますので、今後ともご指導を賜りますようお願いいたします。

日清オイリオグループ株式会社 CSR推進室

日清オイリオグループホームページでは  
さまざまな情報がご覧いただけます。



日清オイリオグループホームページ  
<http://www.nisshin-oillio.com>



病院・施設・在宅ケア  
<http://www.nisshin-oillio.com/goods/support/>



日清オイリオグループ株式会社

〒104-8285 東京都中央区新川一丁目23番1号  
お問い合わせ先：CSR推進室 TEL.03-3206-5026



この報告書は、印刷工程で有害な廃液を出さない水なし印刷方式で印刷しています。  
またインキには、揮発性有機化合物を含まない植物油のNon-VOCインキを使用しています。



### オリーブ

油分:15~35%

オリーブの果実からとれるオリーブ油は、薄黄色で、特有の香りとうまみがあり、ヨーロッパでは古来から最高級の油として尊ばれています。地中海料理やシーフードサラダ、マリネなどの食用に使われるほか、化粧品、医療品などにも用いられます。

主要生産国:イタリア、スペイン